

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32511

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12179

研究課題名（和文）介護老人福祉施設での薬剤管理に関する多職種協働を促進する評価ツールの開発と検証

研究課題名（英文）Development and validation of an evaluation tool to promote interprofessional collaboration regarding medication management in nursing home for elderly

研究代表者

善福 正夫（ZENFUKU, MASAO）

帝京平成大学・健康医療スポーツ学部・教授

研究者番号：20514087

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：介護老人福祉施設における薬剤管理について、多職種がどのように協働を進めているかという実態を明らかにし、そこに潜んでいる問題点を見つけ、その解決策を探るのが本研究の目的である。インタビュー調査により、介護老人福祉施設では、介護老人保健施設と同様に看護師が薬剤管理を主に担当していることが明らかになった。さらに薬剤師の常勤配置が介護老人福祉施設ではさらに少数になるので、看護職のみならず、介護職へも薬剤管理の仕事が回ってくることもあり、介護職から少数ではあるが不満の声が上がっている実態が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インタビュー調査により、介護老人福祉施設では、介護老人保健施設と同様に看護師が薬剤管理を主に担当していることが明らかになり、看護職だけではなく、介護職へも薬剤管理の業務が割り当てられており、現場からは薬剤師の配置を求める意見が多かった。このことは介護老人福祉施設入所者の健康を守るうえで今後、薬剤師の配置を充実させることが重要であることを示唆する有益な情報であり、学術的にまた今後さらに高齢化が進む我が国にとって社会的意義が高いと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the reality of how multiple professions work together to manage medication in nursing homes for the elderly, to find potential problems, and to explore solutions. Interview surveys revealed that in nursing homes for the elderly, as in geriatric health services facilities, nurses are primarily in charge of medication management. Furthermore, because there are even fewer full-time pharmacists in nursing homes for the elderly, medication management work sometimes falls on care workers as well as nurses, and it became clear that a small number of care workers are expressing dissatisfaction.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：多職種協働 看護職 介護職 薬剤管理

1. 研究開始当初の背景

介護老人福祉施設は、我が国の高齢者福祉の中核であり、その機能の充実が一層求められている。研究開始当初の厚生労働省の調査によれば、介護老人福祉施設は 7,065 施設(平成 27 年 10 月 1 日現在)が設置されており、入所者数は 471,585 名(平成 27 年 10 月 1 日現在)である。入所者の大多数は何らかの薬が処方されており、施設運営の中心的な担い手である看護・介護職は、日々の実践の中で薬剤管理を行っている。しかし、先行研究では、介護老人福祉施設における薬剤管理の実態はいまだ明確なものになっていない。施設の実態により異なるものの、薬剤管理の一例を記述すると、医師が処方箋を書いた後、薬剤師が薬剤を調合し、看護職に渡される。このあと、自己管理ができる入所者には直接薬剤が渡される一方で、自己管理ができない入所者の場合は、各入所者の氏名が書かれたカート等に朝・昼・夕・就寝前の薬剤を看護職が仕分けしている。そのカート等での薬剤管理において、処方の変更の際はカート等から不要な薬剤を取り出す。または追加するといった業務が日常的に発生している。さらには、入所者に薬剤を投与したあとの状態変化のアセスメントと、状況に応じた医師への報告等が加わり、薬剤管理に関する業務は看護職のみならず介護職を含めて多忙さを感じさせている。一方で、全老健共済会の報告によれば、例えばワーファリン使用に関連した事故報告が毎年 1 件程度の頻度で発生していることが明らかとなっている。他にも日本薬剤師会の高齢者施設調査によると、習慣的に薬を飲みすぎていたケースや、薬による副作用の発症があったケース等、薬剤に関する事故が少なからず起きている。つまり、介護老人福祉施設における薬剤管理が効果的で安全なものであるかどうかは、入所者の健康の維持を左右する重要な要因であることが明らかであり、かつ、多職種の有機的な協働が不可欠である。

また、介護老人保健施設を対象とした同様な研究調査では、看護職は「薬剤管理は他の職種が担ってほしい」、介護職は「薬剤管理は他の職種が担ってほしい」と考えていることが明らかとなっている。薬剤管理を看護職・介護職が担うことは、職務満足度を下げる要因となっていることが示唆されたものである。この研究では自由記載欄のない質問紙調査法を用いたため、具体的に担ってほしいとする職種が薬剤師かどうかは明確ではないものの、介護老人福祉施設においても薬剤師に大きな期待があることが十分に推察できる。介護老人福祉施設の人員配置では、薬剤師に関する明確な規定はなく、統計データにも薬剤師の勤務状況を明確に表したものはない。こうした社会的背景も、入所者の健康を左右しかねない重要な要因といえよう。

以上から、限られた人員配置のなかで効果的で安全な薬剤管理の促進に資する協働を検討することは国民の健康の維持・増進を左右する重要な課題といえる。

さらに先行研究を「看護」「老人福祉施設」「薬」の and 検索により得られた結果によると、介護老人福祉施設においては入所者の 9 割以上が何らかの薬剤を内服していること、また、薬の管理のほぼ 100%を看護師が行うが、入所者に実際に薬を手渡す段階となると介護職の約 60%がそれを担当していた。

さらに、与薬時の事故が少なからず起こっていること、また与薬の際には、看護職も介護職ともに薬剤に関して疑問や不安を抱えており、薬剤を専門的に管理、統括することの必要性が示唆されていることが報告されている。

先行研究において、薬剤管理に関する実態の一部は、明らかになっているものの、その全容は明らかとは言えない。また、医師・薬剤師・看護職・介護職等、多職種協働による効果的で安全な薬剤管理を促進する評価ツールの開発と検証に関するものは見当たらない。よって、本研究に組み込む価値は高いと考えた。

2. 研究の目的

本研究では、1.介護老人福祉施設における看護職を中心とした薬剤管理の実態の把握、2.前述の実態に潜むリスク要因の検討、3.医師・薬剤師・看護職・介護職等、多職種協働による効果的で安全な薬剤管理を促進する評価ツールの開発と検証を行うことを目的とした。

3. 研究の方法

介護老人福祉施設における看護職を中心とした薬剤管理の実態を、インタビュー調査をもとに質的帰納的に明らかにし、さらには質問紙調査を用いて量的に明らかにする。その後、前述の実態に潜むリスク要因の検討、および多職種協働による効果的で安全な薬剤管理を促進する評価ツールの開発と検証を行う。

4. 研究成果

介護老人福祉施設における薬剤管理について、多職種がどのように協働を進めているかという実態を明らかにし、そこに潜んでいる問題点を見つけ、その解決策を探った。インタビュー調査により、介護老人福祉施設では、介護老人保健施設と同様に看護師が薬剤管理を主に担当していることが明らかになった。さらに薬剤師の常勤配置が介護老人福祉施設ではさらに少数になるので、看護職のみならず、介護職へも薬剤管理の仕事が回ってくることもあり、介護職から少

数ではあるが不満の声が上がっている実態が明らかになった。薬剤管理に関しては可能な限り薬剤師に担当してほしいと、看護職および介護職は考えているものの、薬剤師の配置が望めない現状から仕方ないという諦めに近い感情を持っているスタッフが多いという意見が得られた。量的調査についてはコロナ禍により協力が得られず、研究期間中にデータ分析まで行えなかった。今後の課題として分析し、評価ツールの開発まで今後進めていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 善福 正夫	4. 巻 33
2. 論文標題 介護老人福祉施設における薬剤管理に関する多職種協働について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京平成大学紀要	6. 最初と最後の頁 221-225
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 善福 正夫
2. 発表標題 介護老人福祉施設における薬剤管理に関する多職種協働について
3. 学会等名 第50回日本看護学会-看護管理-
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	稲津 教久 (Inazu Norihisa) (40151584)	帝京平成大学・薬学部・教授 (32511)	削除：2021年6月28日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------